

新年を安全に”踏み”出そう！

～年末の大掃除での踏み台・足場台の事故に注意～

今年も残りわずかとなり、大掃除や洗車などで、踏み台・足場台を使う機会が増える季節です。独立行政法人製品評価技術基盤機構〔NITE（ナイト）、理事長：長谷川 史彦、本所：東京都渋谷区西原〕は、年末の作業を安全に行うため、踏み台・足場台メーカーのアルインコ株式会社と連携して、事故事例を紹介し注意を呼びかけます。

年末といえば大掃除。窓ふきや高い場所の掃除、洗車などで、踏み台や足場台を使う機会が増える季節です。しかし、こうした作業中には、本人も気付かぬうちに身を乗り出し、バランスを崩して転倒・転落する事故が多発しています。

また、踏み台や足場台を背にしての昇り降りや、開き止め金具（止め金具）をロックせずに使用するという、誤った使用方法による事故も目立ちます。こうした使い方は非常に危険で、事故につながるおそれがあります。

大掃除の前に踏み台・足場台の正しい使い方を確認し、安全に作業を終え、気持ちよく新年を踏み出しましょう。



足場台から身を乗り出したことにより転倒する様子（再現実験）

■踏み台・足場台の事故を防ぐために気を付けるポイント

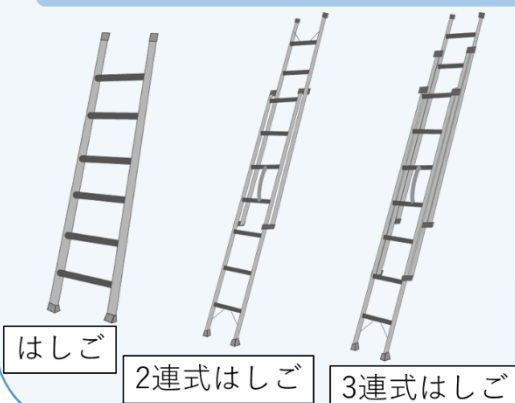
- 身を乗り出す、つま先立ちするなど無理な体勢で使用しない
- 昇降面を向いて昇り降りする
- 開き止め金具（止め金具）をしっかりロックし、安定した地面に設置する
- 室内ではスリッパや滑りやすい靴下を避け、屋外では滑りにくい靴を履いて使用する

（※） 本資料中の全ての画像は再現イメージであり、実際の事故とは関係ありません。

本資料での対象製品と用途

はしご (本資料では対象外)

壁や柱に立てかけて使用する長い直線状の道具
昇降用に使用するもの



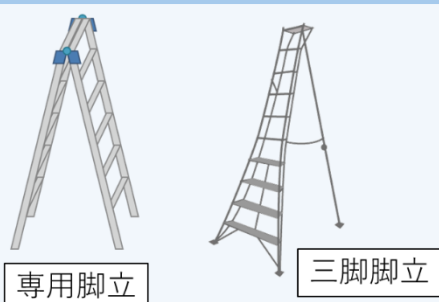
はしご兼用脚立 (本資料では対象外)

(本資料では対象外)



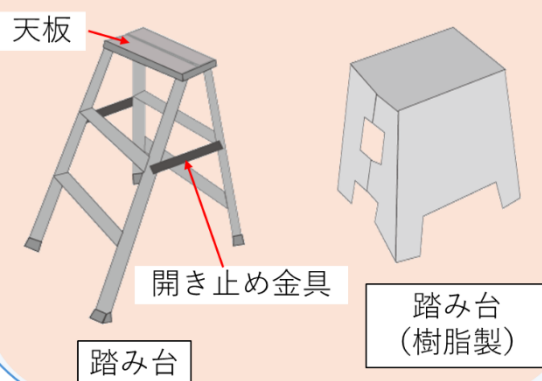
脚立 (本資料では対象外)

A字型に開いて自立できる台
昇降用及び高さを補うために使用するもの



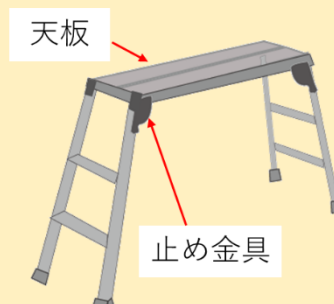
踏み台 (対象)

手が届かない場面で使用する台
高さを補うもの



足場台 (対象)※1

天板が広く安定性が高い台
作業を支えるもの



「はしご」は、壁や柱に立てかけて使う長い直線状の道具で、屋根など高所に昇るために使用します。
「脚立」は、A字型に自立できる構造で、照明器具の交換など昇降や高さを補う作業に適しています。

「踏み台」と「足場台」は「脚立」に含まれます。「踏み台」は、手が届かない場所で高さを少し補うための小型の台で、窓ふきや棚の上の物を取るなどの室内作業に便利です。「足場台」は、天板が広く安定性が高い台で、洗車や塗装などの長時間の作業に向いています。

本資料では、家庭内で多く使用されている「踏み台」と「足場台」を対象製品とします。

(※1)「JIS S 1121 : 2013 アルミニウム合金製脚立及びはしご」では「足場台脚立」と定義されていますが、本資料では一般的に使用されている「足場台」とします。

1. 事事故事例

■ バランスを崩して転倒した事故

事故発生年月 2021 年 7 月（埼玉県、50 歳代・男性、重傷）

【事故の内容】

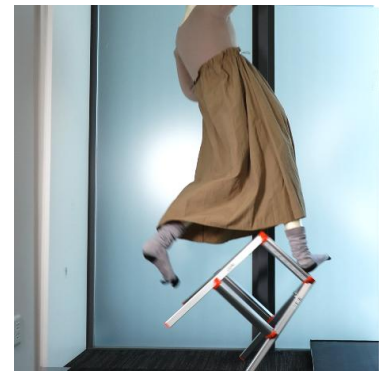
踏み台を使用中、転倒し、負傷した。

【事故の原因】

踏み台は、支柱の強度に異常は認められず、支柱端部が通常使用における荷重方向と異なる内側方向に破損していたことから、使用者が作業中にバランスを崩して転倒したものと考えられ、製品に起因しない事故と推定される。

【NITE SAFE-Lite 検索キーワード】

踏み台 バランス 転倒



踏み台から身を乗り出しバランスを崩して転倒している様子（再現実験）

■ 踏み台を背にして降りたことにより転倒した事故

事故発生年月 2016 年 11 月（大阪府、40 歳代・男性、軽傷）

【事故の内容】

踏み台から降りようとしたところ、転倒し、軽傷を負った。

【事故の原因】

踏み台の昇降面を背にして降りる際にバランスを崩した使用者が踏み台とともに転倒し、身体が天板に接触して破損したものと推定される。

なお、取扱説明書には、「身体の前面を踏み台の昇降面に向けて、慎重に昇り降りする」旨、同梱されているチラシには、「踏み台を背にして昇り降りすること禁止」旨、記載されている。

【NITE SAFE-Lite 検索キーワード】

踏み台 背 昇降



踏み台を背にして降りている様子（アルインコ株式会社 HP より）

■ 開き止め金具（止め金具）をロックせずに転倒した事故

事故発生年月 2024 年 6 月（東京都、40 歳代・男性、軽傷）

【事故の内容】

足場台を使用中、転倒し、側腹部を負傷した。

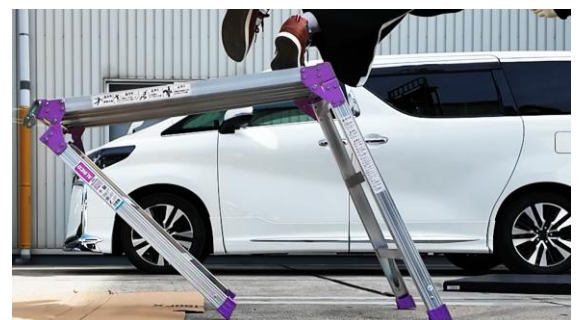
【事故の原因】

使用者が片側脚面の止め金具をロックしていなかったため、作業中の体重移動等により脚面が内側に折りたたまれ、バランスを崩した使用者の身体が天板に落下し、天板が破断したものと推定される。

なお、取扱説明書には、「全ての止め金具をロック受けピンに掛け、昇る前に必ず全ての止め金具がロックされていることを確認する。」旨、記載されている。

【NITE SAFE-Lite 検索キーワード】

踏み台 開き止め金具



足場台が折りたたまれて転倒する様子（再現実験）

2. 気を付けるポイント

踏み台・足場台の気を付けるポイント

○身を乗り出す、つま先立ちするなど無理な体勢で使用しない

踏み台や足場台を使用する際は、身を乗り出したり、つま先立ちになるなどの不安定な体勢は避けてください。バランスを崩して転倒・転落するおそれがあり、思わぬ事故につながる危険があります。特に作業に集中していると、本人も気付かないうちに無理な体勢になっていることがあります。

届きにくい場所には、踏み台や足場台の位置を移動して使用してください。

なお、踏み台や足場台の高さが足りず無理な体勢にならざるをえない場合は、より高さのある踏み台や足場台を使用するか、はしごや脚立など、用途に応じたより安全な製品の使用を検討してください。



踏み台を移動せずに身を乗り出す様子



つま先立ちをして足場台を使用している様子

○昇降面を向いて昇り降りする

踏み台や足場台を使用する際は、身体の前面を踏み台や足場台の昇降面に向けて昇り降りしてください。踏み台や足場台を背にして昇り降りすると、体のバランスが崩れやすくなり、踏み台や足場台自体も不安定になって非常に危険です。特に荷物を持っていたり、急いでいたりするときなどは、無意識に危険な動作をしてしまうことがあります。

踏み台・足場台の昇降は正しい姿勢で、ゆっくり慎重に行いましょう。



足場台から正しい姿勢で降りる様子

○開き止め金具（止め金具）をしっかりロックし、安定した地面に設置する

開き止め金具（止め金具）のロックが不十分な状態で使用すると、使用時に閉じて転倒・転落するおそれがあります。踏み台や足場台を完全に開き、開き止め金具（止め金具）を確実にロックした状態で使用してください。

また、傾斜のある地面や柔らかい土の上、雨上がりの地面では、踏み台や足場台が不安定になり転倒・転落するおそれがあるため、水平な地面の上で使用してください。



足場台を完全に開き、止め金具をロックしている様子

○室内ではスリッパや滑りやすい靴下を避け、屋外では滑りにくい靴を履いて使用する

室内で踏み台を使用する際は、スリッパやナイロン製の靴下など滑りやすいものは避け、素足または滑り止め付き靴下で使用してください。屋外で踏み台や足場台を使用する場合は、滑りにくい靴を着用しましょう。



素足で踏み台に乗っている様子

事故事例・リコール情報を確認

○過去に発生した事故情報、リコール情報を確認する。

踏み台・足場台の事故の中には、リコールが開始された後に発生したものもあります。お持ちの製品がリコール対象になっていないか今一度ご確認ください。

もしリコールの対象となっている製品をお持ちの場合は、不具合が生じていなくても直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店や製造・輸入事業者を確認や相談をしてください。そのまま使い続けないようにしてください。

【NITE SAFE-Lite（ナイト セーフ・ライト）のご紹介】

NITE はホームページで製品事故に特化したウェブ検索ツール「NITE SAFE-Lite（ナイト セーフ・ライト）」のサービスを行っています。製品の利用者が慣れ親しんだ名称で製品名を入力すると、その名称（製品）に関連する事故の情報やリコール情報を検索することができます。

また、事故事例の【SAFE-Lite 検索キーワード例】で例示されたキーワードで検索することで、類似した事故が表示されます。



<https://www.nite.go.jp/jiko/jikojohou/safe-lite.html>

※製品事故情報を収集し、公開して広く社会で共有して、事故原因の分析・評価や再発防止に活用していくことは重要です。そうした事故情報が活用されて、従来の基準が見直され、安全性の向上した新基準での製品が作られ、流通・販売されることで、関連事故の減少につながります。

もし製品事故に遭われた場合には、消費者の皆さんは購入先（販売事業者）やメーカー（海外製品であれば輸入事業者等）または消費者ホットライン「188」（最寄りの消費生活センターや消費生活相談窓口）に、また、流通・販売事業者におかれてはそうした製品事故情報を知った場合には当該製品のメーカー等に、それぞれ報告いただくようご協力をお願いします。

【消費者庁のリコール情報検索サイトのご紹介】

「消費者庁リコール情報サイト」では、消費者向け商品のリコール情報を掲載しており、キーワードによりリコール情報を検索することができます。さらに、「リコール情報メールサービス」に登録することで、新規のリコール情報等が提供されます。



<https://www.recall.caa.go.jp/>

お問い合わせ先

独立行政法人製品評価技術基盤機構 製品安全センター 所長 川崎 裕之
担当者 製品安全広報課 宮川 七重、山崎 卓矢、丸田 萌

Mail : ps@nite.go.jp

Tel : 06-6612-2066